備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度	①平成１５年度　②平成１６年度	根拠法令・例規等	①備前市長寿祝金条例　②備前市高齢者ふれあい事業補助金交付要綱
総合計画 大項目 基本目標	02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先 担当課（室）	介護福祉課
総合計画 中項目 基本施策	01 やさしさあふれるまちづくり	問合先 職・氏名	高齢者福祉係長　森　優
総合計画 小項目 施策	04 高齢者福祉	問合先 電話	0869-64-1827
事務事業名	14 長寿御祝事業	このシート作成に要した時間	1.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	①１００歳以上の市民 ②年度内に７５歳以上となる市民
目的（何のために）	①長寿祝金：高齢者に対し祝金を支給して敬老の意を表し、市の福祉を増進する。 ②高齢者ふれあい事業：高齢者同士や近隣住民等とのふれあいのために町内会が実施する敬老会等の行事に要する経費に対して、補助金を交付することにより、高齢者の心身の健康増進を図る。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	①市内の高齢者宅を慰問することにより、長寿を祝うとともに、敬老精神の向上を図る。 ②地域でともに支え合いながら敬老の意を表し、高齢者福祉の増進を図る。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
長寿御祝事業	祝金を支給する。	○
敬老事業補助事業	町内会等が実施する敬老会等に補助金を交付する。	◎

事業費等

決算額		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
事業費	直接事業費	千円	16,981	17,079	16,507
事業費	必要人員 人件費	千円	0.21人 1,677	0.22人 1,855	0.25人 1,693
事業費	事業費計	千円	18,658	18,934	18,200
財源	国県支出金	千円			
財源	受益者負担	千円			
財源	繰入金	千円			
財源	市債	千円			
財源	その他（　）	千円			
財源	一般財源	千円	18,658	18,934	18,200
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標

結果指標	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	説明	高齢者ふれあい事業補助人数の推移		
結果指標量		6,647	6,457	6,761
対前年比	%	－	97.1%	104.7%
活動コスト	円	16,261,265	16,119,375	15,791,075
単位当たりコスト	円	2,446	2,496	2,336

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
高齢者ふれあい事業町内会等参加率	目標値（A）	93	98	98	98
	実績値（B）	96	98	98	到達目標値
	達成率（B/A）	103.23%	100.00%	100.00%	98

成果指標設定の考え方・式や説明

申請町内会等／ふれあい事業対象施設等

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性・必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ■ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**D**

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ■ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高いや高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**D**

有効性の評価

目的達成度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高いや高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：高齢者ふれあい事業は記念品の配布のみの事業ではなく、高齢者同士や近隣住民とふれあえる事業の実施を推奨している。今年度も昨年度の減額した補助額を補助する。

総合評価

高齢者ふれあい事業は補助金対象者の行事への出席率が低く、事業費に比べ効果が低い。

総合評価（A 高いや高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**D**

Action

平成26年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：市民の意識、効果、補助金額等を総合的に検討する必要があると思われるが、自治会連絡協議会役員会で今後について検討していただく。